

## 第1章 環境研究センターの概要

### 1・1 沿革

千葉県では、大気、水質、地質、廃棄物及び化学物質に関して3つの機関を設置して各種調査・研究を行い、大気汚染、水質汚濁、地盤沈下などの公害や廃棄物の適正処理に関して行政機関等と連携して対処してきた。近年の良好な環境質を求める動き、大気、水質及び地質の全ての環境質を循環して汚染する有害物質や地球環境問題など複雑、多様化する環境問題に対応するため、平成13年度に3機関を統合した。

年月	環境研究所 (現大気環境研究室・ 騒音振動研究室)	水質保全研究所 (現水質地質部)	廃棄物情報技術センター (現廃棄物・ 化学物質研究室)
昭和43年8月	公害研究所発足(大気を所掌する研究室設置)		
昭和45年7月	地盤沈下研究室設置		
昭和47年4月		水質保全研究所発足	
昭和48年4月	大気第四研究室設置		
昭和49年11月	地盤沈下研究室が船橋分庁舎から千葉市稲毛海岸の庁舎に移転		
昭和50年6月		新庁舎(稲毛海岸)に移転	
昭和51年4月	大気常時監視業務を大気保全課に移管	産業廃棄物研究室設置	
昭和54年4月	騒音振動研究室設置		
昭和63年4月	地盤沈下研究室が水質保全研究所に組織替え	地盤環境研究室が公害研究所から所属替え(同時に名称変更)	
平成2年3月	環境放射能測定棟を設置		
平成3年4月		地質環境インフォメーションバンク整備	
平成4年4月	環境研究所に名称変更	地盤環境研究室を分割し地質環境第一及び第二研究室を設置	
平成6年4月	自動車排気ガス研究室を設置	産業廃棄物研究室を廃止し、印旛沼・手賀沼浄化研究室設置	廃棄物情報技術センター発足
平成10年6月			廃棄物情報バンク整備
平成11年4月			ダイオキシン分析設備整備
平成13年4月	3機関を統合し、環境研究センター発足 (大気部、廃棄物・化学物質部、水質地質部の3部制)		
平成17年4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大気部の大気環境研究室、ばい煙粉じん発生源研究室を、大気環境研究室として1室に統合</li> <li>・水質地質部の水質環境研究室、排水研究室を、水質環境研究室として1室に統合</li> </ul>		
平成19年4月	大気部、廃棄物・化学物質部を廃止 (1部・1課・1室・7研究室体制に変更)		
平成20年4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総務課、企画情報室を総務企画情報課として1課に統合</li> <li>・廃棄物研究室、化学物質研究室を廃棄物・化学物質研究室として1室に統合</li> </ul>		

## 1・2 施設の概要

( 1 ) 市原地区 総務企画情報課  
大気環境研究室、騒音振動研究室  
廃棄物・化学物質研究室

所在地 市原市岩崎西1 - 8 - 8

敷地面積 13,295.18 m<sup>2</sup>

### 建 物

本 館	鉄筋コンクリート造2階建	延 1,372.50 m <sup>2</sup>
新 館	鉄筋コンクリート造3階建	延 1,607.49 m <sup>2</sup>
騒音振動研究棟	鉄筋コンクリート造2階建	延 259.86 m <sup>2</sup>
大気振動実験棟	鉄筋コンクリート造平屋建	延 236.00 m <sup>2</sup>
環境放射能測定棟	鉄筋コンクリート造平屋建	延 100.75 m <sup>2</sup>
土木実験棟	鉄骨造平屋建	延 167.20 m <sup>2</sup>
付属建物(試験炉建屋,ポンペ庫,車庫等)		延 438.11 m <sup>2</sup>

( 2 ) 稲毛地区 水質地質部(水質環境研究室、地質環境研究室)

所在地 千葉市美浜区稲毛海岸3 - 5 - 1

敷地面積 6,614 m<sup>2</sup>

### 建 物

水質研究棟	鉄筋コンクリート造3階建	延 1,536.16 m <sup>2</sup>
地質研究棟	鉄筋コンクリート造2階建	延 756.00 m <sup>2</sup>
地質環境情報資料棟	鉄筋コンクリート造2階建	延 222.00 m <sup>2</sup>
付属建物(倉庫,車庫等)		延 351.65 m <sup>2</sup>

### 1・3 位置図

(1) 市原地区 (総務企画情報課、大気環境研究室、騒音振動研究室、  
廃棄物・化学物質研究室)



(2) 稲毛地区 (水質地質部：水質環境研究室、地質環境研究室)



1・4 組織と業務（平成20年4月1日現在）

